

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	環境計画進行管理事業	会計	一般会計	事業No.	354	施策順No.	55-003
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-5-14-1		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	地球温暖化対策課		
施策	55環境改善活動の展開			事業期間	開始	8	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	環境プラン						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		プラン改定時に関わる市民	50	50	50	50	50	
	意図	プラン改定時に関わる市民を増やす						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	市民会議、環境審議会、地区担当者会、パブリックコメントなどで参加市民を増やす(人)		100	100	100	100	100	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	計画の進行管理である環境レポート(平成21年度の取組)を作成した。データについては経年変化がわかるようにし、当年の主な事業を特集した。平成23年度の計画の見直しを見据え、レポートのあり方も検討に入った。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	平成24年度に改訂施行を予定している「21いいだ環境プラン」について、23年度中に現行のプランの内容の大幅な見直しを行い、23年度末に第3次改訂版を発行する。 23年度中は、現行のプランの進行管理を行うとともに、改定後には、新たに策定した環境プランの進行管理を行う。 施策内重点事業として実施予定。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 環境プラン第2次改訂版の進行管理 (1) 市民会議や環境審議会への進行状況の報告 (2) 環境レポートの作成と公表 (3) 温室効果ガス排出量の把握	1 (1) 報告会回数(回) (2) 公表数(件・回) (3) 把握件数(件)	1 (1) 2回 (2) 1件1回 (3) 1件
23年度実施計画	環境計画市民会議の委員を活動母体とし、第5次基本構想基本計画の後半期の見直し年度である23年度に、より多くの市民の意見を反映させつつ、環境モデル都市にふさわしい法定の環境計画として、第3次改訂を行う。 これに並行して、第2次改訂版環境プランに関する環境レポートを作成する。	会議開催回数(回)	6回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,560	1,484	1,465		
計(A)		1,560	1,484	1,465		
正規職員所要時間			120			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			429			
トータルコスト A+B			1,913			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分		具体的な取組事項	
21年度決算と比べての効果額(千円)		効果額説明(算出根拠)、特殊要因	

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	環境に配慮しエネルギーを工夫して大切に使う。	施策の成果指標又はムツス指標
この事務事業は施策の目的達成にどのような工夫をいたしましたか	4年間の振り返り	環境プランの第2次改訂作業を行い、これの進行管理を適切に行い、各年度末に環境レポートを刊行した。	
	後期に向けた課題	23年度に実施する環境プラン第3次改訂作業を円滑に行う。	
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	各分野に「リーディング事業」を設置して事業間での選択と集中を図り、効率的な運用に努めた。	
	後期に向けた課題	第5次基本構想の環境面における主たる実行計画である役割を十全に全うするため、既存の事務事業評価制度とのリンクを図り、進行状況の把握の明確性を高めるとともに、高効率化を進める。	
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	予算は委員人件費のみなので、会議の回数を減らす以外にない。	
	後期に向けた課題	予算措置状況を勘案して会議の回数を減らせれば、審議内容の質が低下する可能性があるため、これが生じないように審議を効率的に行う。	
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者負担は特になし。	
	後期に向けた課題	特になし。	
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをいたしましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①環境審議会・環境計画市民検討会議の委員 ②各委員が深く案件を考え、十分に検討された意見を提出できるよう、資料の提供に配慮した。	
	後期に向けた課題	第5次基本計画の後半見直しとの連動を円滑に図る必要がある。当該計画見直しと環境プラン第3次改訂の様々な意思決定のタイミングにはズレがあるので、円滑に連動を図らなければならない。	
全体を通じて	4年間の振り返り	特になし。	
	後期に向けた課題	「環境モデル都市行動計画」と「環境プラン」の役割がわかりにくくなっている。平成23年度に行う第3次改訂では、両者の位置付けと役割を明確化するとともに、環境プランの構成に事務事業評価制度とのリンクを導入し、飯田市が行う事業として評価軸の一本化を進め、環境政策の進行状況を分かりやすくする。	

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ある	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------